

市民シンポジウム登壇者略歴（あいうえお順、敬称略）

（講演者）

更科 功（さらしな いさお）

1961年、東京都生まれ。東京大学教養学部基礎科学科卒業。民間企業勤務を経て大学に戻り、東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。博士（理学）。専門分野は分子古生物学。現在、武蔵野美術大学教授。『化石の分子生物学』で第29回講談社科学出版賞を受賞。

山田 俊弘（やまだ としひろ）

1969年、愛知県生まれ。大阪市立大学で理学の博士号を取得。熱帯林の生物多様性を専門とする。日本熱帯生態学会吉良賞、日本生態学会大島賞、広島大学教育賞受賞。文章は東京書籍『新編論理国語』に収録されている。広島大学総合科学部長。

（趣旨説明）

森中 定治（もりなか さだはる）

1949年、三重県四日市生。生物学者（農学博士）。日本生物地理学会会長、綾瀬川を愛する会代表。

趣味：声楽（テノール）、定年後始め2019年、ウィーン・オペレッタコンクール愛好家シニア第1位、2020年東京国際声楽コンクール愛好家シニア第2位、2021年第一回ボイスリーグ戦ケン・カタヤマ賞、2022年第1回さいたま国際音楽コンクール一般の部埼玉県知事賞。民間企業に勤めるも、ライフワークの生物学を生かし、チョウを材料とした分子生物学研究にて、2003年名古屋大学で博士号取得。2003年より日本生物地理学会会長。学会と一般社会をつなぐ試みとして市民シンポジウム「次世代にどのような社会を贈るのか？」を継続して企画実施、人間とは何か、人間社会のあり方について生物学と哲学が深く結びつき、人間の行動（生き様）の原点をなすことを学んできた。単著に『プルトニウム消滅！脱原発の新思考』展望社（2012）。『プルトニウムを解毒し脱原発・脱核兵器への道を切り拓く「生物学」的思考法』電子書籍・22世紀アート（2022）。

共著に『埼玉蝶の世界』埼玉新聞社（1984）、『チョウの生物学』東京大学出版会（2005）、『現代を生きる安藤昌益』お茶の水書房（2013）、『熱帯アジアのチョウ』北隆館（2015）、『ふしぎのお話365』誠文堂新光社（2015）他。

（司会進行）

蒲生 康重 (がもう やすしげ)

1973年、東京生まれ。2005年 東京農業大学大学院農学研究科
農学専攻博士課程修了。農学博士。現在、一般財団法人進化生物学
研究所 資源植物研究室 研究員、および東京農業大学学術情報課程
(学芸員課程) 非常勤講師。日本生物地理学会では庶務幹事を務
める。